

議 事 録

会議の名称	岩倉市地域福祉計画推進委員会（令和7年度第2回）
開催日時	令和7年11月18日（火）午前9時50分から11時10分まで
開催場所	岩倉市役所7階 第1委員会室
出席者	児玉善郎委員長 伊藤憲治委員 丹羽幸一委員 森 秀和委員 岡崎真大委員 田中愛子委員 山田育代委員 大井佳子委員 水谷寧志委員 大藪かおり委員 福祉部長（佐野剛） 福祉課長（古田佳代子） 福祉課社会福祉グループ長（小南友彦） 福祉課障がい福祉グループ長（水谷正樹） 福祉課社会福祉グループ主査保健師（佐野和代） 福祉課社会福祉グループ主査（浅井淳一郎） 福祉課社会福祉グループ主任（真野友貴） 長寿介護課長（浅田正弘） 長寿介護課長寿福祉グループ長（新中須俊一） 長寿介護課介護保険グループ長（石井陽平） 社会福祉協議会 事務局長（若杉賢司） 社会福祉協議会主事（星野捺美）
欠席者	なし
説明者	福祉課社会福祉グループ主査（浅井淳一郎） 社会福祉協議会主事（星野捺美）
会議の議題	（１）「基本目標３ 包括的な支援に向けた体制づくり－ (3)重層的支援体制の整備」の進捗状況について （２）岩倉市重層的支援体制整備事業実施計画の見直しについて （３）第３期岩倉市地域福祉計画の中間見直しについて
議事録の作成方法	<input checked="" type="checkbox"/> 要点筆記 <input type="checkbox"/> 全文筆記 <input type="checkbox"/> その他
記載内容の確認方法	<input checked="" type="checkbox"/> 会議の委員長の確認を得ている <input type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他（ ）
会議に提出された資料の名称	資料１ 岩倉市地域福祉計画推進委員会委員名簿 資料２ 福祉総合相談窓口（包括的相談支援事業）の実績 資料３ 地域づくり事業の実績 資料４ 多機関協働事業の実績 資料５ 岩倉市重層的支援体制整備事業実施計画(案) 資料６ 第３期岩倉市地域福祉計画 中間見直しスケジュール(案)

公 開 ・ 非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍 聴 者 数	0 人
その他の事項	

1 あいさつ

2 議題

（１）「基本目標３ 包括的な支援に向けた体制づくりー（３）重層的支援体制の整備」の進捗状況について

① 包括的相談支援事業・福祉総合相談窓口（包括的相談支援事業）の実績
・資料２について事務局から説明。

委員：７月に相談が増えているが、なにかあったのか。

事務局：事業開始から期間が短く傾向がまだ明確でなく、原因は不明である。

委員：引きこもりは大人か子どものどちらの相談が多いか。

事務局：30代、50代、60代の相談が多い。子どもの相談もある。

委員：相談はどのような人が多いか。

事務局：相談元は家族からの割合が９割程度で、本人からは１割程度となっている。

委員：引きこもり相談のその後はどうか。

事務局：本人に会えないケースも多く、解決にはなかなかつながっていない。

委員長：どこかの機関につなげているか。

事務局：家族支援がメインとなっており、基本的には福祉課で対応している。関係機関として若者サポートステーション、地域包括支援センター、保健所につないだり、協力を求めたりしたケースもあり、伴走的支援を行っている。

② 地域づくり事業の実績

・資料３について事務局から説明。

委員：市内の高齢者サロンが１つ解散とあったが、理由はなにか。

事務局：運営元の老人クラブの解散に伴い解散した。

委員：地域つながりカフェの参加者の年齢割合はどうか。

事務局：60代以上の方の割合が多い。若い方は30代の参加があった。

委員長：地域つながりカフェの参加者は回を重ねるとどうなったか。

事務局：徐々に参加者は減っていった。

委員長：地域つながりカフェは次年度も４回開催するのか。

事務局：現時点で未定であるが、次年度からは本計画の地域つながりづくり会議実施に向けた内容で進めていきたいと考えている。

③ 多機関協働事業の実績

・資料４について事務局から説明。

委員：令和7年度に断らない相談支援会議等の新規世帯がないがどうか。

事務局：相談はあったが、断らない相談支援会議等の内容に合致していなかったため。

委員：顔の見える連携交流会の第4回目の内容は具体的には何をするのか。

事務局：権利擁護に関する内容で、具体的な内容は今後検討していく。

委員：令和6年度の断らない相談支援会議の回数から令和7年の回数が減っているが原因は。

事務局：一度断らない相談支援会議を開催した後、各担当で支援を行い、状況が変わっていなかったり、安定している場合は断らない相談支援会議は開催していない。

委員：顔の見える連携交流会について、年4回の開催回数が多いのではないかと参加者から声が上がっている。

事務局：今後、WEBなどを活用しての開催も検討している。

委員長：断らない相談支援会議から重層的の会議にケースが移行した場合、終結件数は両方カウントするのではないか。

事務局：移行したタイミングで終結するのか、検討する。

委員長：表の中で、移行したケースの件数を表記すると分かりやすい。

事務局：修正する方向で検討する。

（２）岩倉市重層的支援体制整備事業実施計画の見直しについて

・資料5について事務局から説明。

委員：計画(案)の7ページにある追加の文言で、市民活動支援センターとあるが、どのようなことを期待されるか。委託の仕様書に文言が追加されるのか。

事務局：例えば、引きこもりの人の行先を紹介していただけるようなことを期待している。仕様内での業務協力を考えている。

委員：計画(案)の10ページのコミュニティーソーシャルワーカーは配置しないと言うことでよいか。

事務局：配置をせず、今ある組織で対応できるようにしていきたいと考えている。

委員長：計画(案)4ページに令和6年から計画がスタートしたと文章にも残しておいた方がよい。

事務局：修正する方向で検討する。

（３）第3期岩倉市地域福祉計画の中間見直しについて

・資料6について事務局から説明。

委員：表に記載の市民意向調査はいつの調査のものか。

事務局：令和5年度の結果である。市民アンケートは令和6年度の結果を利用する。

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

委員長：福祉サービス事業所へのアンケートは、いつ実施するものか。

事務局：令和８年度の６～７月のスケジュールにあるデータの分析に間に合うように進める予定である。

３ その他

事務局：今年度の推進委員会はこれで終了とする。また来年度もよろしくお願いします。